



多田小学校通信

多田の里 だより



令和6年3月25日号 ミマモルメ配信

多様性と寛容、そして自律へ

昨年この時期を思い出しています。多田小学校が直面した危機（全国的課題です）から、新しい教育課程を策定し、教職員、保護者、地域のみなさん、教育委員会とも協議を重ねたことを思い出しています。人それぞれ思いや経験が異なり、当初は意見の差異が明確となり、お互いがなかなか受け入れ難いような気もしていました。粘り強く、否定することなく他者を尊重しつつ冷静に意見を語り合えたこと、そんなことを思い出しています。



綿の花

今日修了式を終えて、令和5年度が終了（子どもたちにとっては修了です）しました。この一年はどうだったでしょうか。来年度に向けては、校内や学校運営協議会において、アンケート結果も読み込み、議論を重ね、その方針を決定しています。最も重要な子どもたちはどうだったでしょうか。修了式の様子だけではなく、この一年間を思い返してみると、おとなたちは不安を抱えつつ進んでいたわけですが、多くの子どもたちは、安定した学校生活を送っていたのではないかと感じています。しかし、全員がそうであったのかというと、不安の中で学校生活を送った子どもたちがいたかも知れない、と考えて職務に当たることが学校には必要であると経験が言っています。子ども自身が満足しているのであれば良いのですが、そうではない子どもがいるのではないか、そんな辛さを安心して発信することができる学校であったのか、学年であったのか、学級であったのか・・・。来年度に向けて、自問自答が続きます。

良いとき、悪いとき、そうでもないとき、いろいろな背景をもって学校という場に子どももおとなも集まります。そんな多様性のある場が学校です。「ダイバーシティ」という言葉も耳慣れてきました。いろいろな人が集まれば、そこにはいろいろな意見も存在します。その中でどう生きていくのか、どうやって合意点を探し出すのか、今教育に求められている部分です。

私たちおとなはどうでしょうか。子どもたちに胸を張れる生き方ができているでしょうか。何かを表明するとき、横にいる誰かと違う意見を言ってしまうのではないか様子見をしていないでしょうか。時には「お前、空気読めよ」（少し前によく聞きました）を自分自身で勝手に発動していないでしょうか。「KY」（もっと前に聞きました）になりたいと何度思ったことでしょうか。

これからの社会を生きていく子どもたちと言われますが、その社会をつくっているのは私たちおとなです。当然教職員も含まれます。教職員間はどうでしょうか？教職員と保護者間はどうでしょうか。職場で働き、家庭という場や地域コミュニティという場で生活しています。いろいろな場での関係性は相似形のような気がします。そんなおとなの姿を子どもたちは意識せず接し、思考や行動を身体化しているのです。

教師も保護者も地域の皆さんも、子どもたちからすればロールモデルです。いい意味で「あんなおとなになりたい!」と思ってもらえていれればいいのですが、どうでしょうか。怖くて聞けませんが、そんなおとなでありたいと思います。来年度はそうなれるように、無理せず自然体で、みんなで頑張りましょう。

いろいろな思いを書きましたが、ここまでの一年間、みなさんに感謝申し上げます。みなさんとは、保護者、地域、教職員、教育行政の職員、そして子どもたちです。ありがとうございました。4月からもよろしくお願いします。

今後の予定について

- 4月 8日(月) 始業式
- 4月 9日(火) 入学式
- 4月 11日(木) 給食開始
- 4月 12日(金) 離任式



卒業式

3月19日(火)第145回卒業式を行いました。思い返すと、修学旅行は広島で大雨警報、3月の校外学習も大雨の中でした。もしかすると・・・、と職員室では話題になっていましたが、必要のない心配でした。天候にも恵まれ、感染症の心配もなく、無事に終えることができました。卒業証書授与や卒業の言葉もしっかりと思いを込めて語ってくれました。小学校最後の舞台の主演として堂々と会場に立つ姿を、参列者一同うれしく、微笑ましく、でも寂しく見つめていました。これからいろいろな経験をすることでしょう。良い時悪い時、どちらも経験します。でも、この卒業生たちは、きっと誰かと一緒に乗り越えていくことでしょう。そう思います。

10年後ぐらいに、教育実習に来てくれたらうれしいなあ・・・。

